

国立病院機構熊本医療センター

No.173



# くまびょう NEWS

NHO KUMAMOTO MEDICAL CENTER KUMABYO NEWS

発行所  
国立病院機構熊本医療センター  
〒860-0008  
熊本市二の丸1番5号  
TEL (096) 353-6501(代)  
FAX (096) 325-2519

## 当院における緩和医療体制 について



毎週月曜日に行われる緩和回診の様子

がん患者さんは身体的・精神的な苦痛のみでなく、日常生活・社会的な面など様々な‘つらさ’を持っていらっしゃいます。入院外来を問わずその療養生活をサポートするための当院での取り組みをご紹介します。

手術・薬物療法を含めた抗がん治療と並行した症状コントロール・生活支援を目標に緩和ケアチームを組織しています。医師(麻酔科医・精神科医・放射線科医・内科医)、看護師(がん看護専門看護師・緩和ケア認定看護師)、薬剤師、理学療法士、メディカルソーシャルワーカーなど多職種で構成し、基本的に当院各科の主治医の先生とともに症状に対する具体的な対処法を検討しています。全人的なチームアプローチに加え、総合病院ならではの麻酔科処置・放射線照射・観血的処置など専門性の高い方法を用いての症状・疼痛緩和も可能です。昨年1年間でのチームやがん看護専門看護師への依頼総件数は161件であり、患者さんの一部ではありますが、QOLの向上に役立っていると思います。



緩和ケアチーム

病棟では緩和ケアリンクナースが活動しており、症例検討会を通じて研鑽しあい、各病棟の緩和的アプローチに力を発揮しています。外来においては先生方に当院から経過観察をお願いしている症例も多いのですが、がんに伴う症状でお困りの際にご利用いただくことができるよう緩和外来も行っています。当院では、例年医師向けの緩和ケア研修会、ナースのための癌性疼痛緩和ケアセミナーなどの研修会も行っています。地区での症状緩和に関する勉強会へのチームメンバーの参加・派遣も可能ですのでこれらもご活用いただければと思います。

最後になりましたが、毎月第1金曜午後に当院研修センターで二の丸がんサロンが開かれています。当院への通院の有無に関係なく、患者さん・ご家族同士の情報交換の場になっていますので、興味をもたれる患者様がいらっしゃれば、窓口の当院地域連携室を紹介いただければと思います。

(血液内科 榮 達智)



毎週月曜日に行なわれる緩和治療委員会





## 「延岡医療事情」



大林内科医院

院長 大林 武裕

今年の4月から父の跡を継ぎ内坪井町で内科を開業しています。それまで9年間は、宮崎県延岡市にある叔父の病院に勤めていました。

延岡市は人口13万人、周囲を高千穂の山々と日向灘に囲まれ、五ヶ瀬川と北川の2つの大河が流れる自然豊かな土地です。秋には鮎やながたち、夏は涼しく冬は暖かい、過ごしやすい土地です。

そんな延岡市ですが、医療事情は大変厳しいものがあります。交通網の未発達と医師不足のためです。車で医療機関の充実している都市（宮崎市、熊本市、

大分市）までは、いずれも2時間以上かかります。東九州自動車道の完成もいつになることか？鉄道も単線で他の路線のおさがり列車が走っています。

医師不足もかなり深刻です。県北の延岡市、日向市、都野町に基幹病院が県立延岡病院しかありません。必然的に救急患者が集中し県病院の先生方の負担はかなりのものになっています。そのためどうしても敷居が高くなってしまい、緊急度の高い患者しか紹介しにくくなっています。

その県病院に消化器内科、神経内科、精神科がありません。消化管出血の患者は消化器専門の開業医の先生方が輪番制を組んで頑張っておられますが、緊急輸血の問題などかなりのリスクを抱えておられます。脳梗塞の患者はCT、MRIを持っておられる先生方が輪番制で受け入れています。神経難病の患者さんは2時間以上かけて専門医に診てもらわなければなりません。「どげんかせんといかん！」の前宮崎知事も、地域医療にはあまり関心が無いようでした。

熊本に戻ってまず感じたのは、基幹病院との連携が良いことです。特に熊本医療センターの先生方、スタッフの皆様は、いつも患者を快く引き受けていただき大変ありがたく思っています。私も先生方と共に地域医療に少しでも貢献できればと思っています。

## FAX紹介での時間予約制をご活用下さい

日頃、多くの患者様をご紹介頂きまして誠に有り難うございます。紹介患者様の待ち時間を短くするためにFAX紹介で時間予約ができます。月から金の日勤帯です。

当院のFAX紹介用紙に受診希望日を入れてお送り下さい。担当者がカルテを作成し希望日に時間予約を取りましてFAXにて返信致します。是非、FAX紹介での受信日の指定と時間予約制をご活用して頂き、患者様の待ち時間短縮にご協力下さい。よろしくお願ひ申し上げます。

FAXの紹介用紙は、電話（代表096-353-6501 内線2360）またはFAX（医事096-323-7601）でご請求頂きますと、直ちにFAXにてお送り致します。また、後ほど改めてFAX紹介用紙を郵送致します。

ホームページからもダウンロード出来ます。

国立病院機構熊本医療センターホームページアドレス <http://www.nho-kumamoto.jp/index.html>

（経営企画室長 中村 敦）



# 病棟紹介<8>

## 6 西 病 棟

6 西病棟は、産婦人科、小児科、糖尿病・内分泌内科、救命救急部、人間ドック（2床）を含む混合病棟です。産婦人科は、悪性腫瘍の患者さまが多く、手術療法、化学療法、放射線療法が行われており、緊急手術も多く受け入れています。

小児科は、血液疾患の化学療法や骨髄移植を行っており、入退院を繰り返す患児も多く七夕やクリスマスなど四季の行事を取り入れた入院環境を整えています。また、気管支喘息や肺炎、ウイルス感染症も多いため、職員による交差感染を起こさないよう、スタンダードプリコーションに沿って、感染対策を行っています。県内で唯一、食物負荷試験を行っている施設であり、アレルギー疾患の小児を対象に質の高い看護に努めています。

糖尿病・内分泌内科においては、産婦人科の開業医からの妊娠糖尿病の患者様の紹介や、教育入院が多く、患者指導の充実に努めています。

人間ドックでは、ドック専任の看護師が毎日勤務し、安心して検査が受けられるよう努めています。

(6 西病棟師長 山口 チハル)

季節ごとに変わるディスプレイ



スタッフステーション



人間ドック用個室



6 西病棟スタッフ



去年のクリスマス会の様子



プレイルーム



ダイニングルーム



新生児用沐浴台



## 2011 診療科紹介(42)

### 歯科口腔外科



医長  
中島 健  
口腔外科・一般歯科  
日本口腔外科学会専門医  
日本口腔科学会  
日本口腔衛生学会  
日本摂食・嚥下リハ学会



医師  
片岡 奈々美  
口腔外科・一般歯科  
日本口腔衛生学会認定医  
インфекションコントロールドクター  
日本口腔感染症学会  
日本障害者歯科学会

### 診療内容と特色

当科では、口腔外科疾患を中心に、有病者歯科医療、障害者歯科医療、一般歯科医療を行っています。

院外では県内の歯科医院や医院との連携を強めており、親知らずなどの抜歯や炎症性疾患、口腔や顎骨の腫瘍、嚢胞性疾患、粘膜疾患、顎骨骨折などの外傷など多数の紹介をいただいています。近年、増加傾向にある基礎疾患を持っている患者さんの口腔外科的治療も院内各科や主治医の先生と連絡を密にとりながら、細心の注意を払いつつ行っています。また、顎骨壊死の副作用が問題化されているビスフォスフォネート服用中の患者さんや抗凝薬治療を行っている患者さんに対する外科的治療の紹介も増えてきています。

院内では、血液内科など他科から化学療法、造血幹細胞移植患者の実施前に紹介をいただき、口内炎や発熱の減少につなげています。また、外科や泌尿器科、呼吸器内科、血液内科などからは、B P注射剤であるゾメタ投与前に当科へ歯科検診と定期的なメンテナンス目的とした患者さんの紹介も徹底されてきました。

当院は550床と多くの病床を持っており入院患者さんの口腔に関する訴えに対応すること、さらに口腔機能を回復させ、栄養状態を改善させることも重要な仕事です。病棟では、歯科衛生士とともに口腔内の清掃と誤嚥性肺炎を予防する口腔ケアを実施し、看護師への口腔ケア指導も行っています。さらに摂食・嚥下チームを立ち上げ、院内の各科や言語聴覚士、作業療法士、栄養士、看護師と連携を取り、入院患者さんの摂食・嚥下と全身状態の一日も早い回復のために力を注いでいます。



医師  
河野 通直  
口腔外科・一般歯科  
日本口腔外科学会  
日本骨代謝学会



医師  
高尾 真暢  
口腔外科・一般歯科  
日本口腔外科学会  
日本顎関節学会  
日本歯科麻酔学会

### 診療実績

当院は救命救急センター、開放型病院、地域医療支援病院と多くの指定を受けていますが、それに伴って当科の紹介患者は年間661名と年々増加しております。初診患者は平成21年度が1810名、平成22年度が1954名で紹介率は33.5%でした。紹介患者の増加に伴い、入院加療を必要とする患者も年間91名、そのうち全身麻酔での手術ケースが50件ありました。さらに、地域の歯科医院などへ紹介する逆紹介率も24.8%と増加しております。

入院には口腔腫瘍、顎骨嚢胞、顎骨骨膜炎、顎骨骨髓炎、顔面蜂窩織炎、顎骨骨折、埋伏歯抜歯、口腔出血、有病者の口腔外科手術、障害者の歯科治療、歯科恐怖症の全身麻酔下治療などがあります。

### 研究実績

白血球・造血幹細胞移植患者の口腔ケアの研究には力をいれ、看護師とチームを組んで学会での講演や学会雑誌に発表しております。口腔外科での貴重な症例に関しては、口腔外科学会、口腔科学会、その他の学会、研究会などで発表しております。

### ご案内

外来診療は月曜から金曜の8:30~17:00、新患受付は8:15~11:00(急患は除く)、手術は火曜・木曜の午後に行い、他の曜日の午後は外来口腔外科手術と他診療科入院患者の歯科治療を行っています。

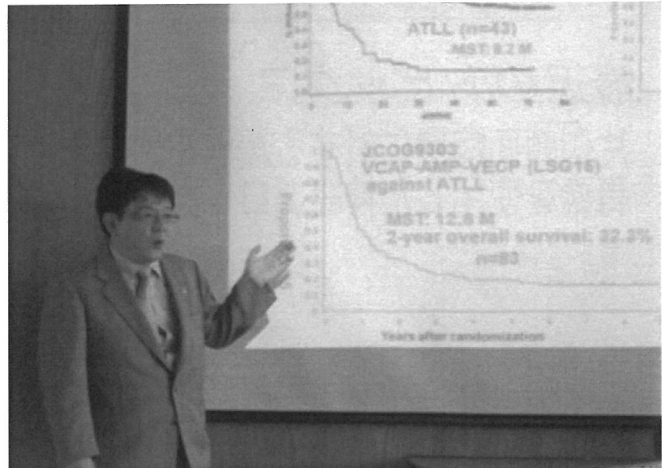
また、歯科医師研修として、熊本市歯科医師会との共催による医歯連携セミナー(6月、10月、2月)、臨床口腔外科講演会(8月、3月)を当院研修センターにおいて開催しております。また、熊本摂食嚥下リハビリテーション研究会を6回、講演会を1回、障害者歯科研究会(熊本SND歯科研究会)も年に2回、同研修センターで開催しておりますので興味がある方は是非ご参加ください。



# エジプト・ファイユーム大学研修報告

平成23年9月20日から平成23年9月27日まで、JICA アフリカ向け第三国研修「感染症免疫分析」の専門家として、エジプト・アラブ共和国ファイユーム大学を訪問しました。前回5年前のスエズ運河大学での研修に続き2回目のエジプト行きでした。

今回Zambiaより5名、Kenyaより4名、Egyptより3名、MalawiとSouth Sudanよりそれぞれ2名、そしてSudan、Tanzania、Zimbabwe、Eritreaよりそれぞれ1名ずつの計20名の研修員が参加しました。研修中の発表ならびに質疑応答からわかるように、参加者の知識と技術は確実に向上しており、この研修コースの寄与は大きいと思います。私は、ヒトレトロウイ



ATL治療に関する講義風景

ルスHTLV-I感染と予防、感染細胞に起こる変化と免疫異常、成人T細胞白血病・リンパ腫（ATL）の特徴、そして造血幹細胞移植を始めとする治療法について、講義をおこないました。また現地スタッフと今後の運営方針について意見も交換しました。

JICAの貢献により医療領域での人材育成が行なわれており、アフリカ諸国を中心としたネットワーク形成と国際協力体制維持のために重要な役割を担っています。

（臨床研究部特殊疾病研究室室長 武本 重毅）



研修員と一緒に記念撮影

## 平成24年度 専修医（後期臨床研修医）を募集します

初期研修を修了し自己プロフェッショナリズムを追求する若き医師に私達の病院は専修医制度を提案します。この制度は幅広い臨床能力と高い専門性を兼ね備えた臨床医を育成するためのものです。研修分野を広く選択できますから、複数の専門医資格を取得することが出来ます。また、熊本大学大学院医学教育部連携講座（博士課程）が設置されており、専修医と並行して臨床研究を行い学位取得も可能です。是非応募して下さい。

応募資格： 2012年3月31日までに臨床研修を修了する見込みの者または初期臨床研修修了者

研修期間： 3年間（希望により5年間まで延長可能）

### 研修のコンセプト

- 幅広い臨床能力と高い専門性を持つ新しい臨床研修医を育成します。
- 自由度の高い選択プログラム；原則3年の研修期間を設定し専門研修と関連領域の総合研修プログラムを個々の医師の将来像に合わせて選択します。内科、外科を超えた自由な選択が可能です。
- 病院間の交流研修；研修期間中にナショナルセンター（高度医療機関）等との交流研修を行い、広い視野と専門性に富んだ臨床医を目指します。
- 国際的な臨床研修；米国Veterans Hospitalへの海外留学を可能とします。
- 医療人としての研修；医療の質を高める臨床研究、深い洞察力を得るためのクリティカルパス、医療分野関連研修を実践します。

願書締切： 平成23年11月30日（水）

選考方法： 書類審査、面接等

問い合わせ先（応募される方は事前下記までお問い合わせ下さい。）

〒860-0008 熊本市二の丸1-5 国立病院機構熊本医療センター 事務部管理課給与係長 佐野 浩史

TEL 096-353-6501（代） FAX 096-325-2519 E-mail sano@kumamoto2.hosp.go.jp

※研修内容についての問い合わせ

TEL 096-353-6501（代）

教育研修部長 清川 哲志

E-mail kiyokawa@kumamoto2.hosp.go.jp



最近のトピックス

片側顔面痙攣に対するA型ボツリヌス毒素を使用した神経ブロック



麻酔科医長

上妻 精二

片側顔面痙攣は顔面神経の被刺激性亢進により、顔面筋が発作性、反復性かつ不随意に収縮する疾患です。発症原因は、顔面神経が脳幹から出る部分で、延長・蛇行した血管あるいは小動脈によって圧迫されるために起こることが多いと言われています。治療法としては、外科的治療法（Jannetta手術：開頭手術により顔面痙攣の主たる原因とされる血管による圧迫を除いて顔面神経の減圧をはかるもの）と抗てんかん薬を中心とした薬物療法、ブロック療法が中心で、その一つがボツリヌス毒素を使用した神経ブロックです。使用するボツリヌス毒素は、ボツリヌス菌（Clostridium botulinum）により産生されたA型ボツリヌス毒素を有効成分としたものです。ボツリヌス毒素は、末梢の神経筋接合部における神経筋伝達を阻害することにより筋弛緩作用を示し、筋痙攣および緊張を改善します（図1参照）。ブロックによる治療効果は、通常2～3日以内に現れ、1～2週間後にピークに達し、効果は通常3～4ヶ月間持続します。その後、神経筋伝達を阻害された神経は筋線維上に新たな運動神経終板を形成すること、毒素の作用をうけた運動神経終板の機能も回復すること、神経筋伝達は数ヶ月後には再開通することなどの理由で、ブロック後の筋弛緩作用は次第に消退していきます。従って、持続的な治療効果を得るためにはボツリヌス毒素を使用して再度ブロックを行う必要があります。これにはボツリヌス毒素の中和

抗体産生を防ぐ意味で、ブロックを施行する間隔が最低でも2ヶ月以上必要とされています。また、片側顔面痙攣に対してこのブロックを行うに当たっては、頭蓋内に器質的病変がないことを確認することが重要で、ブロックに先立ってCTスキャンやMRIなどを行います。

当科では毎週（月）（水）（金）の午前中に外来診療を行っています。平成18年以降、延べ63名の患者様にこのブロックを行ってきました。患者様の満足度も比較的高く、今まで特に大きな副作用などは生じていません。

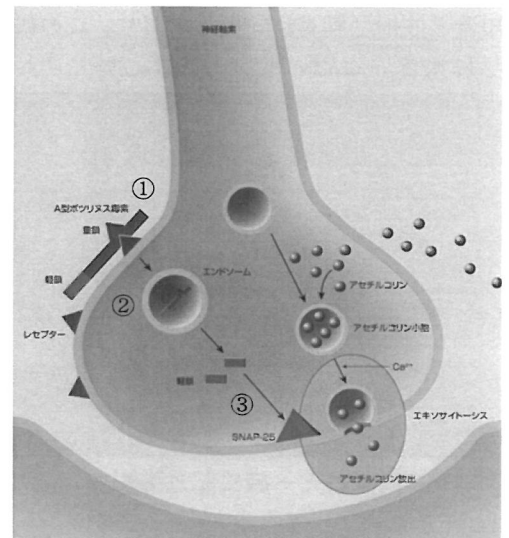


図1：A型ボツリヌス毒素の作用機序（グラクソ・スミスクライン株式会社作成、ボトックス注 製品情報概要より抜粋）

- ① A型ボツリヌス毒素がコリン作動性運動神経終末に結合する
② 神経細胞内にA型ボツリヌス毒素が取り込まれる
③ 細胞質内に注入されたA型ボツリヌス毒素の軽鎖がアセチルコリンの放出に関与するSNAP-25を切断し、アセチルコリンの放出を阻害する（神経終末での神経筋伝達が遮断される）

第13回 二の丸肝臓談話会のお知らせ

（日本医師会生涯教育講座1.5単位認定）

この度、第13回二の丸肝臓談話会を下記の要綱にて開催したいと存じます。今回は特別講演として、東芝病院よりアクバル・シェイク・モハマド・ファズレ先生をお招きしてB型肝炎の基礎から最新の話題についての講演を予定しています。

何かとご多忙中とは思いますが、万障お繰り合わせの上ご出席賜りますようお願い申し上げます。

座長：国立病院機構熊本医療センター 消化器内科医長 杉 和洋

【講演1】「薬局における地域連携パスの活用について」 国立病院機構熊本医療センター薬剤科 川上 恵子

【講演2】「肝細胞癌治療後にIFN治療を行った症例」 国立病院機構熊本医療センター消化器内科医長 中田 成紀

【特別講演】「B型肝炎の病態と最新の治療」 東芝病院 研究部主任研究員 アクバル・シェイク・モハマド・ファズレ 先生

日時：平成23年11月7日（月） 19：30～21：00

場所：国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センター

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター消化器内科医長 杉 和洋 TEL：096-353-6501（代表） FAX：096-325-2519



いま、国立病院機構  
熊本医療センターで  
何が研究されているか

シリーズ59回

## 同種造血幹細胞移植後再発に関する研究

血液内科医長 井上 佳子



「日本人の2人に1人ががんになり、3人に1人ががんで亡くなる時代」とある本のキャッチコピーにもありますが、実際2005年の国立がん研究センターの統計では、がん全体では、年間10万人あたり500人強罹患するとのデータがあります。白血病は全体では年間10万人あたり6人程度でがん全体の1%強と稀な疾患であります。その白血病で化学療法だけでは根治が難しい予後不良群（染色体、寛解導入までの期間、初回の白血球数などによって規定されます）に対しては造血幹細胞移植が唯一の根治的治療であります。この治療のメリットは、正常人（ドナー）の幹細胞を移植することによりドナーの幹細胞が生着、分化、増幅し、残存している白血病細胞も殺傷するという免疫的機序（GVL：Grafe versus leukemia）にあります。よって、ドナー側の監視が強ければ再発は防ぐことができます。一方、ドナー細胞があまりにも強すぎると患者の皮膚、腸管、肝臓といった臓器に対して攻撃を行う移植片対宿主病（GVHD：Graft versus host disease）を引き起こします。つまりGVLとGVHDはもろ刃の剣ですが、これらを完全にコントロールすることは現在でも困難です。

根治をめざした造血幹細胞移植を行っても再発は一定の確率で起こり、骨髄以外に腫瘤を形成して再発する髄外再発も散見され、その原因として上述したドナー

側の監視がなんらかの要因で弱いためと考えられます。これを解析すべく、当院で施行された移植症例について後方視的に非再発例、骨髄再発例、髄外再発例を比較検討し、髄外再発の要因を検討しました。

**対象：**1993年～2010年までに当院で造血幹細胞を行った急性骨髄性白血病（AML）、急性リンパ性白血病（ALL）、慢性骨髄性白血病（CML）患者。

**方法：**移植後寛解群、骨髄再発群、髄外再発群の3群に分け、年齢、性別、ドナー種別、移植時の疾患リスク、前処置の強度、幹細胞ソース、全身照射（TBI）の有無、急性GVHD、再発時期などの因子について有意差があるかを検討。

**結果：**AML、ALL、CMLの同種移植後の181例中20例（10.5%）に髄外再発を認め、その内訳はAML92例中11例（12.0%）、ALL57例中8例（14.0%）、CML32例中1例（3.0%）でした。有意なリスク因子は認められませんでした。移植後髄外再発は骨髄再発より遅く発症する傾向で、特に寛解期移植では移植数年後にも発症する例が認められました。よって寛解期移植例で骨髄が治癒したと考えられても長期的な経過観察が必要と考えられました。

疾患	再発部位	移植時の病期リスク*	症例数（人）	移植後再発日 中央値（日）
急性骨髄性白血病	髄外	標準	4	1363.5 (645-3773)
	骨髄	標準	7	111 (20-1518)
	髄外	進行期	7	168 (18-1743)
	骨髄	進行期	19	80 (20-508)
急性リンパ性白血病	髄外	標準	3	661 (238-1794)
	骨髄	標準	11	221 (61-731)
	髄外	進行期	5	44 (28-1054)
	骨髄	進行期	7	30 (20-301)

\* 標準リスク 移植時寛解、進行期 移植時非寛解

## 新任職員紹介



皮膚科  
なかむら かよ  
中村 香代

平成23年10月1日より、当院皮膚科で勤務することとなりました中村香代と申します。

平成21年に鹿児島大学を卒業後、熊本赤十字病院に

て初期研修を行い、平成23年4月に熊本大学附属病院皮膚科形成再建科に入局いたしました。

今回こちらの病院に赴任し、皮膚感染症や悪性腫瘍、膠原病、中毒疹などなど、幅広く一般皮膚科の症例を日々勉強させていただいております。

新しく整った施設の中で、いつでも快くコンサルトを受けてくださる先生方と優しいスタッフのみなさんと一緒に働かせていただく機会をいただき、非常に光栄です。

たくさんの症例を経験し、少しでも早く患者さんの力になれるよう努力していきたいと思っております。ご指導の程、よろしく願い申し上げます。



## 研修医レポート

### 臨床研修医

1年次 うち はら 内原 とも ゆき 智幸



こんにちは。1年目研修医の内原智幸です。研修医生活が始まってはや半年…本当にあっという間に過ぎたような気がします。私はこれまで麻酔科、消化器内科、外科で研修をさせていただきました。この半年を振り返ってみたいと思います。

始まりは麻酔科でした。ルート確保、気管挿管、脊髄麻酔など多くの手技を経験させていただきました。先生方には、各手技や麻酔中の全身管理などを丁寧に指導していただきました。今後必要となる場面もある

と思うので、その時に生かせたらと思います。

次は消化器内科での研修でした。初めての病棟業務でわからないことばかりでしたが、指導医の先生に丁寧に教えていただきました。手技では実際に患者さんに腹部エコーをして、その所見をチェックしていただきました。エコーにはどこか苦手意識がありましたが、積極的にエコーを使おうという意欲は出てきました。反省すべき点は、先生について回るだけで、問題点に関して自分から積極的に考えようとしなかったことです。情けない話ですが、そのことに気づかせていただいたことも消化器内科の研修で教わったことの1つです。

3つ目の研修科は外科でした。私はあまり器用な方ではないため、手技の多い外科での研修は少し不安でもありました。しかし、指導医の先生はじめ先生方が親切に指導してくださり、縫合をはじめ開腹、中心静脈カテーテル挿入、胸腔穿刺などさまざまな手技を経験させていただきました。

研修医生活の1/4が過ぎ、自分は成長しているのだろうかと不安を感じることもあります。頭も体も使ってがむしゃらにやっていくしかないのかなとも思いますが、少しでも早く、誰かの役に立てるようになれたらと思います。今後ともよろしく願います。

### 臨床研修医

1年次 たか やま 高山 あおい 葵



こんにちは。研修医一年目の高山葵と申します。熊本医療センターで研修を開始して、半年が過ぎようとしています。私はこれまで消化器内科、外科、循環器内科でお世話になりました。

消化器内科では、消化管や肝胆膵の一般的な疾患を数多く経験し、上部・下部消化管内視鏡や腹部エコー等様々な検査にも参加しました。治療のための緊急内視鏡や、緊急のイレウス管挿入にも参加することができました。

外科では、創縫合（体の表面の埋没縫合）や、創の洗浄、術前・術中・術後の管理を学びました。腹部外科から胸腔鏡手術、乳房の手術まで色々な種類の手術に積極的に参加させていただき、緊急手術も多く経験

できました。

循環器内科では、心不全や不整脈などの疾患を経験し、緊急冠動脈造影検査・血行再建術にも数多く参加しました。時には大腿静脈穿刺・スワンガンツカテーテル挿入を行い、ペースメーカー手術では埋没縫合を行いました。

指導医の先生方は皆さん優しく色々なことを教えてください、指摘が必要な点はきっちりとご指導くださいますので、安心して診療にあたることができます。どの科を回っても、直接の指導医の先生以外の先生やコメディカルスタッフの方々にも気にかけていただき、色々なことを教えていただいています。救急外来の当直でも、色々な科の先生方と働くことで、毎回新しい知識を身につけることができます。同期の仲間とは、自分が持っている症例についてお互いに話したり、研修と一緒に参加したりと、切磋琢磨し互いに励まし合いながら研修生活を送っています。

当院で過ごす研修期間は、自分の医師としての基礎を築く期間です。未熟ながらも、日々経験を積んで、好奇心旺盛に、色々なことを学んでいきたいと思っています。皆様、ご指導ご鞭撻のほど、宜しく願います。

### 臨床研修医

1年次 うめざき 梅崎 なおき 直紀



こんにちは。研修医一年目の梅崎直紀です。

私は最初に呼吸器内科からローテートさせていただき、続いて外科を回らせてもらい、そして現在は糖尿病・内分泌内科でお世話になっています。

研修医生活が始まり早5ヶ月が経ちましたが、まだまだ手技に知識に至らない点が多く、毎日が学ぶ日々で濃密な時間を過ごさせていただいています。

この5ヶ月間を振り返ってみて特に感じたことは、全ての診察の基本は問診と身体診察であると再認識したことです。

当院は救急病院なので、CTやMRIなどの医療機器

を兼ね揃えており、オーダー次第で簡単に撮ることが出来ます。徐々に仕事に慣れてきたせいもあり、自分の中で疾患をパターン化してしまい、問診・身体診察終了後の確認のための画像検査が、診断のための画像検査になってしまっていることがあり、画像を撮った後に身体診察で気づけたであろう新たな病変に気づいたということもありました。

もしこういう設備が整ってない所だったらどうする？と最近よく考えるようになり、患者さんの訴えや自分が回っている科で診る以外の部位の診察にも気を配るようになり、画像検査を依頼するときもどのような目的で何を疑っているのかを特に意識しながらオーダーするようになりました。

まだまだ未熟者の自分が安心して診察・治療を行える環境を作ってくださいている指導医の先生方を始め、スタッフの方々の手厚いフォローに感謝しつつ、積極的に診療にあたらせて頂き、少しでもお役に立てるように日々精進していきたいと思っています。

これからもご指導・ご鞭撻の程をよろしく願います。

# 研修のご案内

## 第17回 症状・疾患別シリーズ（会員制）

〔日本医師会生涯教育講座2.5単位認定〕

日時▶平成23年11月5日(土)15:00~17:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長：熊本県医師会理事

宮本憲司朗 先生

演題：「認知症の診断と治療」

- |           |                     |          |
|-----------|---------------------|----------|
| 1. 病歴呈示   | 国立病院機構熊本医療センター精神科医長 | 山下 建昭    |
| 2. 認知症の診断 | 国立病院機構菊池病院臨床研究部長    | 木村 武実 先生 |
| 3. 認知症の治療 | 国立病院機構菊池病院院長        | 高松 淳一 先生 |

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ（年会費10,000円）として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は1回会費2,000円で参加いただけます。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局

TEL 096-353-6501 (代表) 内線2630 096-353-3515 (直通) FAX 096-352-5025 (直通)

## 第123回 三木会（無料）

（糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会）

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

〔日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定〕

日時▶平成23年11月17日(木)19:00~20:45

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

- 「ケトアシドーシスを起こして入院し糖尿病と診断された1例」  
国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科  
伊藤仁、嶋田さやか、児玉章子、高橋毅、豊永哲至、東輝一朗
- 「妊娠糖尿病診断基準改訂前後の患者数・栄養指導数・インスリン治療件数等の比較検討」  
国立病院機構熊本医療センター栄養管理室  
近藤高弘、大野仁美、立石容子、石崎明子、椿裕子  
国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科  
嶋田さやか、児玉章子、高橋毅、豊永哲至、東輝一朗

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター内科部長 東 輝一朗 TEL 096-353-6501 (代表) 内線5705

## 第154回 月曜会（無料）

（内科症例検討会）

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

日時▶平成23年11月21日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

- 胸部レントゲン読影
- 持ち込み症例の検討
- 症例検討「最近経験した興味深い症例」  
国立病院機構熊本医療センター神経内科医長 田北 智裕
- ミニレクチャー「最近の内視鏡での診断技術の進歩について」  
国立病院機構熊本医療センター消化器内科 小林 起秋

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター教育研修部長 清川 哲志 TEL: 096-353-6501 (代表) FAX: 096-325-2519

## 第115回 救急症例検討会（無料）

日時▶平成23年11月30日(水)18:30~20:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

症例検討「中毒」

国立病院機構熊本医療センター救命救急部長

高橋 毅

国立病院機構熊本医療センター精神科医長

渡邊健次郎

救急救命士、救急隊員を含めた全ての医療従事者を対象とした症例検討会です。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501 (代表) 内線2630 096-353-3515 (直通)



2011年

# 研修日程表

11月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

11月	研修センターホール	研修室	その他
1日(火)			7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~19:00 外科術前症例検討会 C1 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2
2日(水)			7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
4日(金)			7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~ 8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~ 9:00 消化器病研究会 C1
5日(土)	15:00~17:30 第17回 症状・疾患別シリーズ [日本医師会生涯教育講座2.5単位認定] 座長 熊本県医師会理事 宮本憲司朗 「認知症の診断と治療」 1. 症例提示 国立病院機構熊本医療センター精神科医長 山下 建昭 2. 認知症の診断 国立病院機構菊池病院臨床研究部長 木村 武実 3. 認知症の治療 国立病院機構菊池病院 院長 高松 淳一		
7日(月)	19:30~21:00 第13回 二の丸肝臓談話会		7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~ 8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
8日(火)			7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~17:00 外科術前症例検討会 C1 17:00~21:00 泌尿器科・放射線科合同ウログラム C1 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2
9日(水)	18:00~19:30 第71回 国立病院機構熊本医療センター クリティカルパス検討会(公開)		7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
10日(木)	19:30~21:30 歯科領域における救急蘇生法講座 講師 国立病院機構熊本医療センター救急科 小寺 厚志 他		7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~ 9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
11日(金)			7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~ 8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~ 9:00 消化器病研究会 C1
14日(月)			7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~ 8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
15日(火)			7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~19:00 外科術前症例検討会 C1 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2
16日(水)			7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
17日(木)		19:00~20:45 第123回 三木会(研2) (糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定] [日本糖尿病看護士認定更新のための研修単位<2割>0.5単位認定]	7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~ 9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
18日(金)			7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~ 8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~ 9:00 消化器病研究会 C1
19日(土)	13:30~17:00 第83回 救急蘇生法講座 講師 国立病院機構熊本医療センター麻酔科部長 江崎 公明 他		
21日(月)	19:00~20:30 第154回 月曜会(内科症例検討会) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]		7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~ 8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
22日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	19:00~21:00 小児科火曜会(研1)	7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~19:00 外科術前症例検討会 C1 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2
24日(木)	18:30~20:00 日本臨床細胞学会熊本県支部研修会	19:00~21:00 熊本脳神経疾患懇話会(研2)	7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~ 9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
25日(金)		15:30~16:45 肝臓病教室(研2) 「C型肝炎のインターフェロン治療」	7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~ 8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~ 9:00 消化器病研究会 C1
26日(土)	13:30~16:00 看護卒後研修 「看護の概念化(ナラティブ)」 済生会横浜市南部病院 院長補佐 陣田 素子		
28日(月)			7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~ 8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
29日(火)			7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~19:00 外科術前症例検討会 C1 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2
30日(水)	18:30~20:00 第115回 救急症例検討会 「中毒」		7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1

研1~3 2階研修室1~3 C1・2 3階カンファレンスルーム1・2 5西 5階西病棟 6東 6階東病棟 6西 6階西病棟 6北 6階北病棟 消 消化器病センター読影室 手術室  
問い合わせ先 〒860-0008 熊本市二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センター  
TEL 096-353-6501(代) 内線2630 096-353-3515(直通)